

平成 30 年度研究成果に関する外部有識者意見聴取の結果について

平成 31 年（2019 年）3 月 28 日

山口県農林総合技術センター

1 目的

研究成果の公表にあたり、現場での活用可能性、新規性、フォローアップや確認試験の必要性について外部有識者から幅広い視点や専門的な観点から意見を聴き、意見を踏まえた対応方向等今後の研究開発に活かす。

2 対象課題

平成 30 年度にセンター内部の完了評価を受けた単県研究課題

3 外部有識者の選定

1 課題 4 名の外部有識者を次の①～④の区分から 1 名ずつ選定し、別添の調査票により平成 31 年 2 月から 3 月にかけて意見を聴取した。

①学 識 経 験 者：国立大学法人 山口大学

②他 の 研 究 機 関：国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 西日本農業研究センター
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 関西支所

③農 業 関 係 団 体：山口県農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会山口県本部、
(公財) やまぐち農林振興公社、山口県土地改良事業団体連合会、
(公社) 山口県畜産振興協会、山口県森林組合連合会

④消 費 者 団 体：山口県地域消費者団体連絡協議会

4 結果

No.	課題名	総合評価※ ²	評価内訳※ ¹ (人)		
			A	B	C
H30-01	集落営農法人における企業的経営の実践と継承を支える人材育成手法の解明	一定の成果が得られた	0	4	0
H30-02	集落営農法人への体験交流事業導入の可能性と事業の継続要因の解明	十分な成果が得られた	2	2	0
H30-03	地下水位制御システムにおける補助孔機能の確保による営農の安定化技術の確立	十分な成果が得られた	2	2	0
H30-04	小規模未改修ため池の管理省力化技術の確立	一定の成果が得られた	1	3	0
H30-05	より良い日本酒づくりのための ICT を活用した酒米の栽培支援システムの確立	十分な成果が得られた	4	0	0
H30-06	高温耐性水稻品種系統の安定栽培体系の確立	十分な成果が得られた	4	0	0
H30-07	水稻のカドミウム吸収抑制遺伝子を有する品種の選定と育成	十分な成果が得られた	4	0	0
H30-08	山口県育成アブラナ科野菜の改良	十分な成果が得られた	4	0	0
H30-09	夏季の高温に起因するカンキツの果皮障害軽減技術の確立	一定の成果が得られた	1	3	0
H30-10	気象変動に対応した「せとみ」及び高糖系ウンシュウミカンの連年安定生産技術の開発	十分な成果が得られた	2	2	0
H30-11	バヒアグラス草地を基盤とした飼料作物の省力的二毛作技術の開発	十分な成果が得られた	2	2	0
H30-12	肥育豚における効率的な暑熱対策技術の開発（低コスト暑熱対策技術の開発）	一定の成果が得られた	0	4	0
H30-13	シカ生息地における植栽技術の確立	一定の成果が得られた	0	3	1

※1 評価基準

A：山口県の生産・流通・加工等の生産現場で活用可能性が高い。

B：生産現場での確認等の普及支援を行うことにより現場で活用が可能。

C：追試や確認試験が不可欠・現場で活用可能性が低い。

※2 総合評価

Aが過半数の場合：十分な成果が得られた。

AとBを合計が過半数：一定の成果が得られた。

上記以外：成果が得られなかった。

※3 その他寄せられた主な意見等は別紙参照

5 その他

当センターホームページを通じて平成31年2月5日から平成31年2月28日までの間、一般県民から対象課題に関する意見募集を実施し、寄せられた意見は1件であった。

(別添)

平成 30 年度研究成果に関する外部有識者への意見聴取 質問・意見等記入票

記入日：平成 30 年 月 日

所 属：_____

氏 名：_____

課題番号	
課題名	

1 以下の質問事項についてあてはまる評価の□にチェックを入れてください。

評 価 内 容	評 価		
	A	B	C
	可能性 は高い	普及支援 により活 用が可能	可能性 は低い
この研究成果は実用技術としての活用可能性は高いと思いますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

評価基準

A：山口県の生産・流通・加工等の生産現場で活用可能性が高い。

B：生産現場での確認等の普及支援を行うことにより現場で活用が可能

C：追試や確認試験が不可欠、現場で活用可能性が低い。

2 その他、この課題に対して御意見があれば記載してください。

--